

岐阜農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成22年4月30日現在

今月の重点活動

(いちご新規就農者が就農に向けて準備中)

全農県本部が運営している「いちご新規就農者研修施設」の研修生受入れが2年度目を経過し、本年度新たに3期生4名が研修に着いた。

管内へは1期生2名、2期生4名が就農及び就農準備を進めている。

農業普及課では、新規就農者6名(2期生4名+2名)に対し、普及指導員3名(地区担当2名、資金担当1名)が連携し就農準備のため資金手続きや施設建設等の支援を行っている。

いちごについては、研修から就農定着に至るまでの一貫した県関係機関等による計画会議J A、市等の支援体制により県トップの産地維持を目指した普及活動を展開している。



主要農作物の生産振興

■ふるさとのじまん農産物づくり

(羽島市産アスパラガス出荷始まる)

出荷時期は低温の影響で、やや遅れ3月25日からスタートした。品質も良好で順調な収穫出荷が行われている。

羽島市のアスパラガスは、生産者・関係機関と連携した生産拡大活動の結果、平成21年度の作付面積は前年比約220%の58aとなり、平成22年には年間の出荷量は5トンが見込まれている。

農業普及課では、現状の春どりから夏秋どり作型から更に長期継続出荷ができる新作型を検討し、産地拡大することとしている。岐阜市黒野地区では新たな新規栽培者4名(10a)が取り組み、管内においてアスパラガス栽培が広がっている。



収穫適期の春芽

■水稻

(管内トップをきって羽島市で田植えが始まる)

4月17日、桑原町大須で田植えが始まった。特別栽培米「あきたこまち」で11ha、収穫した米は半分が地元の酒屋「千代菊」に販売され、残り半分はJ Aぎふ直売所「おんさい広場」で早場米として販売する予定である。



新規に建設されたハウス

■小麦

(赤かび病対策指導)

管内の小麦は4市1町で約300ha作付されており、低温等の影響から出穂はやや遅れて4月10日頃から始まった。

農業普及課では、小麦の赤かび病防除指導として出穂状況を把握し、J Aと連携して小麦の赤かび病防除対策等チラシにより啓発を行っている。第1回目の防除は4月23~26日を中心に行われている。



ジコナリによる赤かび防除

■えだまめ

(岐阜えだまめ出荷始まる)

4月27日から、加温ハウスから出荷が開始された。

今年度のお荷期間は、4月下旬から11月上旬で、お荷量は、1,300t(前年比117%)が見込まれている。

今年度からJ Aぎふえだまめ部会ではG A Pに取り組んでおり農業普及課では、チェックシートによる点検と現地調査を重点的に支援することとしている。



出荷間近のハウスえだまめ

■だいこん

(だいこんの現状お荷量：前年比7割程度・岐阜市)

4月下旬お荷は1~2月の天候不順から播種できずお荷量が減少(日量500c/s程

度)。前年比7割程度が見込まれる。

薬味だいこん出荷目揃え会が4月16日行われ、70円/本で5月中旬までに2,000c/sの出荷が見込まれる。(4戸・18a)



薬味大根の出来栄えに満足

■にんじん

(春にんじん販売会議開催：各務原市)

低い気温による生育遅れや、病害発生も見られるが、5月上旬の出荷始めに向けて生産者は管理作業を進めている。出荷に先立ち4月30日に春にんじん販売会議開催され今年の作柄、出荷計画等の検討が行われた。(作付面積：44.7ha)

■にんにく

(病虫害対策に奮闘中・岐阜市、山根市、本巣市)

収量・品質に影響する春腐病・さび病等病虫害対策として各産地とも計画防除を実施している。岐阜市では、「にんにくの芽」が4月末から市場等への出荷が開始された。

■かき

(生育は平年並み)

柿の生育は3月下旬以降の寒さの影響から、展葉期が「富有」では4月11日頃とほぼ平年並みになっている。一部で霜害の被害が確認された。

昨年、大発生したフジコナカイガラムシの対策として、粗皮削りとジノテフラン顆粒水溶剤の塗布処理の指導を行った結果、管内柿産地に普及し、その効果が期待されている。

また、今年はカメムシの越冬数が多かったため、データを基に注意喚を行っている。

管内の主要柿産地で「早秋」、「太秋」への切り替えを指導した結果、各地で接ぎ木作業が真っ最中で面積拡大が図られている。



普及指導員のかがり防除講習

■花き

(ポットローズ養液診断の実施(組成確認))

管内ポットローズ生産者において、前回の養液診断により石灰分がかなり低いことが判明したため養液組成を変更した。成分組成の改善について確認を行うため養液診断を実施し、測定結果から各成分濃度に欠乏項目はなく、改善されたことが確認ができた。

担い手の育成・確保

■青年農業士

(今年度の活動計画を決定)

岐阜地域青年農業士連絡協議会(会員18名[1名増])では、第1回役員会が開催され新規就農者との交流会を新たな活動として行うことになった。

■女性農業経営アドバイザー

(各務原市・羽島市から各1名、新規認定される)

4月12日に県女性農業経営アドバイザー総会及び研修会が開催され、各務原市、羽島市各1名の計2名が新規アドバイザーに認定された。

地域の動き等

■本巣市・瑞穂市

「鉄コティング種子」による湛水直播栽培の試験導入を行った。(取り組み農家7名)

■各務原市、羽島市

4月14日各務原市を皮きりに28日羽島市で市、JA、県等の営農連絡会議を開催し、計画的な普及活動の展開を目的に情報交換を行った。

■JAぎふ

JAぎふでは今年度から、営農プランナー17名、営農技術指導員7名を配置し、販売額増を目指した営農体制強化を図っている。いちごでは、4月16日に品目担当と今後のいちご産地振興について検討会を行い、今後定期的に開催することを申し合わせた。